

教育実践論文

## 新型コロナウイルス感染症の中での令和2年度の教育実習の補習

松山 郁夫\*      ・      高柳 元\*\*      ・      正寶 直美\*      ・      芳野 正昭\*

### Supplementary Teaching Practice under the Epidemic of New Coronavirus Infection on the 2020

Ikuo MATSUYAMA, Gen TAKAYANAGI, Naomi SYOHO, and Masaaki YOSHINO

【要約】令和2年度の本学における教育実習については、新型コロナウイルス感染の影響で、最小限の日数で行うことにした。実習日数が最小限の日数を満たさない場合は、本学で教育実習補習による対処をした。本稿では、本学で実施した教育実習補習プログラムについて報告する。また、主免実習に対する附属小学校、及びA市立B小学校とC小学校における、令和元年度と令和2年度の各教育実習への質問紙調査に対する学生の回答について考察する。

【キーワード】教育実習，教育実習補習プログラム，小学校主免実習，新型コロナウイルス感染症

#### 1. はじめに

「教育実習は教育課程の一部を担当することを目的として、時間を費やして実施される。」(芦原・原, 2021), 「実習生は、生身の児童生徒と向き合う中で自分の予想しないような反応が返ってきたり、学習計画通りに授業が進まなかったりすることに直面する。そして、自身の課題や弱点に気付いていく。教職を目指す学生にとって、実際の学校現場を体験する教育実習は、キャリア選択の上でも重要な機会になっている。」(小林, 2021), 「小学校教育実習は、大学の授業で得た学修や体験を生かす場であると同時に、これから先の教員になるための自己の課題を発見し、自己研鑽の動機づけする場でもある。」(田中・岡田・石田・西村, 2019), 「小学校教員への質問紙調査によって、教員として責任感をもって意欲的、主体的に教育活動に取り組もうとする力を実習中に身に付けること、いじめ事象や特別な配慮を必要とする児童生徒が増えているため、学級経営・特別支援教育を学ぶこと、及び先行研究で見出されてきた実習生が不安を感じている授業実践力よりも、教員として様々な課題に取り組む態度や意欲といった資質能力を培うことが求められる。」(西川・堀田・馬野・宮野, 2019)。これらの見解から、教育実習については、教員を目指す学生にとって貴重な体験学習であると捉えられる。

令和2年1月、中国湖北省・武漢において新型コロナウイルス感染症の感染爆発が起き、パンデミックに発展した。日本でも感染が拡大したため、令和2年5月1日に文部科学省から、「令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について」の通知がなされた。本学では、この通知を踏まえて、令和2年度に限って、実施する教育実習すべての授業時間数や実施期間の設定に当たっては、教育実習生を受け入れる学校等の状況も踏まえ、弾力的に検討することとした(例えば、小学校主免実習については、例年の4週間から3週間(15日間)にする等の検討をした)。

その後、令和2年8月11日に文部科学省より、「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行について」の通知がなされた。それによれば、令和2年度限りの特例的な取扱いとして、新型コロ

\*佐賀大学教育学部

\*\*佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター

新型コロナウイルス感染症の影響により、大学等が令和2年度に教育実習の科目の授業を実施できないことにより、大学等に在学する学生又は科目等履修生（以下「学生等」という。）が教育実習の科目の単位を修得できないときは、課程認定を受けた教育実習以外の科目の単位をもってあてることができる（以下「教育実習特例」という。）、施行期日は令和2年8月11日とする、令和2年度に教育実習の科目の履修を希望しながら、大学等が授業を実施できないことにより単位を修得することができなかった者は、卒業年次の学生等であるか否かに関わらず、教育実習特例の対象とする。以上のことが規定された。

この改正に対して、「教職課程を置く大学や専門学校等（以下、大学等）をはじめ、実習生を受け入れる学校、教育委員会の関係者は困惑し不安を抱えた。教育実習は教員免許状を取得するための必修科目というだけでなく、未来の教育を担う教員の養成には欠かせない重要な科目だと認識されているからである。また、教育実習で学校現場を経験しないまま教壇に立つことには、教員養成に関わる者だけでなく、教員を目指す学生自身にとっても大きな不安がある」（小林, 2021）と指摘されている。このため、新型コロナウイルス感染症がある程度拡大しても、実習生による毎日の検温、マスクの着用、手の消毒、ソーシャルディスタンスへの気配り、換気の徹底等の感染対策によって実習校における感染が予防できる状況であれば、教育実習を実施するのが望ましいと言える。

「実習後の質問紙調査では、実習生の配置方法、学部における事前指導、実習中の対応等について、実習校から好意的な評価が得られた。実習校から、実習生を受け入れた本校、指導に携わった教員にとっても、自身のあり方を見直す大変良い学びの機会となったとの回答があり、教育実習が大学と実習校の双方にとって有意義なものになった」（矢野口・小島・小林・内藤, 2021）との報告がなされている。つまり、新型コロナウイルス感染症が収束していなくても、予防対策をした上で教育実習がなされ、大学と実習校の双方が建設的に取り組んだことによって、有意義な教育実習になったものと考えられる。

「教育実習では、新型コロナ対策のため常にマスクをつけて授業をすることが求められ、そのことを実習生は理解して授業に臨んでいた。授業中の声の大きさにはさほど影響がなかったが、生徒の表情の読み取りにくさが生徒観察に影響していた。しかしながら、そのような状況でも、生徒と直接接することのできる時間は充実していたものだった」（小田原・宮本・加古・有本, 2021）と報告されているため、児童生徒と接することに対する教育的意義の大きさが窺える。

今回のA市立B小学校とC小学校における令和2年9月の教育実習では、学校側より実習生に対してマスクに加えて、顔全面を覆うフェイスシールドの着用が求められた。このため、児童の表情を読み取ることには、かなりの困難さを伴っていた。なお、同校の教師はフェイスシールドを着用していなかったため、実習生に対して特別な対応が行われていたと言える。

令和2年度の本学の小学校における主免実習については、本学教育学部附属小学校、A市立B小学校とC小学校には、先述した令和2年5月1日に文部科学省からの通知に従って、主免実習を例年の4週間から最低限度である3週間（15日間）にすること、実習生は実習の2週間前から検温を毎日すること、本学のある県内で生活すること、発熱時は実習を休むこと、等の大学側の取り組みを実習校に対して説明した。しかしながら、A市立B小学校とC小学校の両校における教育実習は、両校の実習生計48名に対して全員7日間に設定された。したがって、令和2年度中に残り8日間の教育実習に代わる授業を、本学教育学部において教育実習補習と称して実施することが不可欠になった。なお、体調不良等で実習が15日未満になった場合は、それに新たな補習を加えて15日間となるようにした。

本学では教育実習補習の前例がないため、補習内容を考える上での参考となる情報を収集するために、九州・沖縄の教員免許を出しているすべての国立大学に、教育実習補習をどのように行っているのかを

各大学の教育実習担当者に電話等で質問をした。その結果、どの大学も本学の主免実習にあたる教育実習を4週間（20日間）、または最低限の3週間（15日間）で行っているため、大学では補習を行っていないとのことだった（これらのことについては、令和3年2月に再度教育実習担当者に電話連絡をして確認したが、同様の回答であった）。このため、本学独自の教育実習補習を作成して実行することになった。なお、本学の主免教育実習が実施された令和2年9月の佐賀県における新型コロナウイルス感染者の総数は7名であった。

本稿では、本学で実施した教育実習補習プログラムについて報告する。また、主免実習に対する附属小学校とA市立B小学校とC小学校における、令和元年度と令和2年度の各教育実習への質問紙調査に対する実習生の回答について検討する。

## 2. 実施した教育実習補習の内容

本学では、教育実習に代わる授業（教育実習補習）を行った前例がないため、教育実習特例を鑑みて、本学教育学部教育実習委員会で、教員に広く意見を聞きながら修正を重ねて、教育実習補習案を作成し、教育学部以外の経済学部、芸術地域デザイン学部、理工学部、農学部の4学部についても教員免許取得希望学生がいるため、全学カリキュラム委員会で承認を得た上で、教育実習補習を実施することになった。期間は令和2年11月から令和3年2月までとした。

令和2年度教育実習補習については、学生が15日間の教育実習にあたる大学での授業を受講できるように、A（A市立B小学校・C小学校主免教育実習生 8日：64時間）（表1）、B（A市立B小学校・C小学校併免教育実習生 3日：24時間）（表2）、C（教育学部以外の4学部等、3日：24時間）（表3）、D（附属中・附属特別支援・附属小学校で1日欠席した学生 1日：8時間）（表4）、E（A市立B小学校・C小学校主免教育実習で欠席が続いた学生等 13日：104時間）（表5）までの5種類のプログラムを準備し、各学生の実習校での不足している実習日数を補うようにした。教育実習補習プログラムにおいては、Aに48名、Bに12名、Cに29名、Dに57名、Eに1名、計147名が受講した（令和2年度第5回教育実習委員会資料）。

教育実習補習においては、小学校学習指導案作成や模擬授業を重視した。道徳科の授業、カリキュラム・マネジメント、ICT利活用教育、学校における危機管理に関する集中講義については、なるべく対面形式で行うようにした。また、ビデオ視聴に関しては、学校における教育実践、学習指導要領、主体的・対話的で深い学び等に関する内容とした。これらは教育実習において重視されているため、実習生が深く学ぶことができるような配慮を心がけた。

表1 令和2年度教育実習補習計画A

【A市立B小学校・C小学校主免教育実習生】（8日：64時間）

	内 容	備 考	時間	提出締切等
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導案作成①</li> <li>※教材観・児童観・指導観・単元目標・評価規準・指導計画等も含む。本時案はその単元中の1時間分を作成する。</li> <li>※教育実習中に授業で使用したもの以外を作成する。</li> <li>※大学教員の指導を受け、修正したものの提出まで行う。</li> <li>※教科は問わない。</li> </ul>	指導案作成 5	8	指導案提出 11/16 <b>対面授業</b> <b>11月中</b> 修正提出 12/23
		大学教員による指導 2		
		指導案修正 1		

②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導案作成②</li> <li>※教材観・児童観・指導観・単元目標・評価規準・指導計画等も含む。本時案はその単元中の1時間分を作成する。</li> <li>※教育実習中に授業で使ったもの以外を作成する。</li> <li>※大学教員の指導を受け、修正したものの提出まで行う。</li> <li>※教科は問わないが、①とは別の教科で作成する。</li> </ul>	指導案作成 5	8	指導案提出 11/16 <b>対面授業</b> 11月中 修正提出 12/23
		大学教員による指導 2		
		指導案修正 1		
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業</li> <li>※①②で作成した学習指導案以外の授業を行う。</li> <li>※教科は、国語か算数から選択する。</li> <li>※学年・単元等は問わない。</li> <li>※本時案及び黒板計画を作成し、模擬授業を行う。</li> <li>※模擬授業の相互参観を行い、意見を述べ合う。</li> </ul>	授業準備 4	8	<b>対面授業</b> 1/20③④
		模擬授業 1		
		相互参観 3		
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『中学校の教育実践』 A市立D中学校元校長</li> <li>・感想レポート 1000字以上 (Stream 配信)</li> </ul>	動画視聴 2	8	レポート 11/30 <b>対面授業</b> 12/2③
		感想レポート 4		
		ディスカッション 2		
⑤ (この中から2本選択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『新しい学習指導要領において期待される学び』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4用紙2枚)・感想レポート (400字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2	16	要点整理 (2本分) 感想レポート (2本分)  12/16
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4用紙2枚)・感想レポート (400字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2		
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『学校における働き方改革「先生が忙しすぎる」をあきらめない』 学校業務改善アドバイザー 妹尾 昌俊 先生</li> <li>・要点整理 (A4用紙2枚)・感想レポート (400字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2		
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義</li> <li>※冬季休業中に<b>2日間</b>(終日)の集中講義を行う。</li> <li>※内容や日時、担当教員については後日連絡</li> <li>講義予定内容(変更の可能性あり)</li> <li>・道徳科の授業について</li> <li>・カリキュラム・マネジメントとは</li> <li>・学校におけるICT利活用教育</li> <li>・学校における危機管理</li> </ul>	2日間の集中講義	16	<b>対面授業</b> <b>冬季休業</b>

※⑤については、適宜大学教員からのフィードバックを行う。

表2 令和2年度教育実習補習計画B

【A市立B小学校・C小学校併免教育実習生】(3日:24時間)

	内 容	備 考	時間	提出締切等
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導案作成</li> <li>※教材観・児童観・指導観・単元目標・評価規準・指導計画等も含む。本時案はその単元中の1時間分を作成する。</li> <li>※教育実習中に授業で使ったもの以外を作成する。</li> <li>※大学教員の指導を受け、修正したものの提出まで行う。</li> <li>※教科は問わない。</li> </ul>	指導案作成 5	8	指導案提出 11/16 <b>対面授業</b> 11月中 修正提出 12/23
		大学教員による指導 2		
		指導案修正 1		



②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『中学校の教育実践』 A市立D中学校元校長</li> <li>・感想レポート 1000 字以上 (Stream 配信)</li> </ul>	動画視聴 2	8	レポート 11/30 <b>対面授業</b> <u>12/ 2③</u>
		感想レポート 4		
		ディスカッション 2		
③ (1本選択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『新しい学習指導要領において期待される学び』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2	8	要点整理 感想レポート  12/16
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『道徳科の授業の充実を図るために』 文部科学省教科調査官 浅見 哲也 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2		
		要点整理 4		
		感想レポート 2		

※③については、適宜大学教員からのフィードバックを行う。

表 3 令和 2 年度教育実習補習計画 C

【教育学部以外の 4 学部等】(3 日 : 24 時間)

	内 容	備 考	時間	提出締切等
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『中学校の教育実践』 A市立D中学校元校長</li> <li>・感想レポート 1000 字以上 (Stream 配信)</li> </ul>	動画視聴 2	8	レポート 11/30 <b>対面授業</b> <u>12/ 2③</u>
		感想レポート 4		
		ディスカッション 2		
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『新しい学習指導要領において期待される学び』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2	8	要点整理 感想レポート 12/9
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『道徳科の授業の充実を図るために』 文部科学省教科調査官 浅見 哲也 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2	8	要点整理 感想レポート 12/16
		要点整理 4		
		感想レポート 2		

※②③については、適宜大学教員からのフィードバックを行う。

表 4 令和 2 年度 教育実習補習計画 D

【附属中・附属特別支援・附属小学校で 1 日欠席した学生】(1 日 : 8 時間)

内 容	備 考	時間	提出締切等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『中学校の教育実践』 A市立D中学校元校長</li> <li>・感想レポート 1000 字以上 (Stream 配信)</li> </ul>	動画視聴 2	8	レポート 11/30 <b>対面授業</b> <u>12/ 2③</u>
	感想レポート 4		
	ディスカッション 2		

表 5 令和 2 年度教育実習補習計画 E

【A市立B小学校・C小学校主免教育実習で欠席が続いた学生等】(13 日 : 104 時間)

内 容	備 考	時間	提出締切等
①	指導案作成 5	8	指導案提出 11/16 <b>対面授業</b> 11 月中 修正提出 12/23
	大学教員による指導 2		
	指導案修正 1		

②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学習指導案作成②</li> <li>※教材観・児童観・指導観・単元目標・評価規準・指導計画等も含む。本時案はその単元中の1時間分を作成する。</li> <li>※教育実習中に授業で使用したもの以外を作成する。</li> <li>※大学教員の指導を受け、修正したものの提出まで行う。</li> <li>※教科は問わないが、①とは別の教科で作成する。</li> </ul>	指導案作成 5	8	指導案提出 11/16 <b>対面授業</b> <b>11 月中</b> 修正提出 12/23
		大学教員による指導 2		
		指導案修正 1		
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業</li> <li>※①②で作成した学習指導案以外の授業を行う。</li> <li>※教科は、国語か算数から選択する。</li> <li>※学年・単元等は問わない。</li> <li>※本時案及び黒板計画を作成し、模擬授業を行う。</li> <li>※模擬授業の相互参観を行い、意見を述べ合う。</li> </ul>	授業準備 4	8	<b>対面授業</b> <b>1/20③④</b>
		模擬授業 1		
		相互参観 3		
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『中学校の教育実践』 A市立D中学校元校長</li> <li>・感想レポート 1000 字以上 (Stream 配信)</li> </ul>	動画視聴 2	8	レポート 11/30 <b>対面授業</b> <b>12/2③</b>
		感想レポート 4		
		ディスカッション 2		
⑤ (この中から2本選択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『新しい学習指導要領において期待される学び』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2	16	要点整理 (2 本分) 感想レポート (2 本分)  12/16
		要点整理 4		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて』 國學院大學教授 田村 学 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	動画視聴 2		
		要点整理 4		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴『学校における働き方改革「先生が忙しすぎる」をあきらめない』 学校業務改善アドバイザー 妹尾 昌俊 先生</li> <li>・要点整理 (A4 用紙 2 枚)・感想レポート (400 字以上) (Youtube NITS 独立行政法人教職員支援機構)</li> </ul>	感想レポート 2		
		動画視聴 2		
		要点整理 4		
		感想レポート 2		
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義</li> <li>※冬季休業中に <b>2 日間</b> (終日) の集中講義を行う。</li> <li>※内容や日時、担当教員については後日連絡</li> <li>講義予定内容 (変更の可能性あり)</li> <li>・道徳科の授業について</li> <li>・カリキュラム・マネジメントとは</li> <li>・学校における ICT 利活用教育</li> <li>・学校における危機管理</li> </ul>	2 日間の集中講義	16	<b>対面授業</b> <b>冬季休業</b>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文作成</li> <li>※「生きる力」「学力向上」・「働き方改革」・「不登校対応」・「いじめ防止」から <b>2 つ</b> 選択して書く</li> <li>※780 字以上 800 字以内</li> <li>※2 つとも Word で作成して提出する。</li> </ul>	作成 6	8	小論文提出 12/9 <b>対面授業</b> <b>12 月中</b>
		大学教員による指導 2		
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書写</li> <li>※大学教員から、硬筆、毛筆、板書指導法の講義を受け、実技を行う。</li> <li>※小・中学校教科書の題材に取り組む。 硬筆 5 枚。他、生活の中の書 (掲示物等)</li> <li>毛筆 5 枚。他、生活の中の書 (看板・表示等)</li> </ul>	硬筆指導 2	8	<b>対面授業</b> 11/11 ~ 12/23
		毛筆指導 3		
		板書指導 3		

⑨	・ポスター作成 ※「人権」・「交通安全」・「いじめ防止」から1つ選択して作成する。 ※四つ切り画用紙1枚	作成 4	6	作品提出 12/16 対面授業 12月中
		大学教員による指導 2		
⑩	・読書感想文作成 ※400字詰め原稿用紙3枚 縦書き ※1枚目の1行目に題, 2行目に氏名, 3行目から4枚目の2行目迄本文	作成 8	10	作品提出 12/23 対面授業 12月中
		大学教員による指導 2		
⑪	・家庭科調理実習 ※「おすすめの朝食」の献立を考え調理をする。 ※材料, 分量, 調理に使う道具等, 途中経過の写真5枚程度, おすすめのポイント, 感想をA4用紙2枚以内のレポートにまとめる。	調理実習の計画 2	8	レポート提出 12/29
		買い出し・準備 1		
		調理実習 2		
		レポート作成 2		
		大学教員による指導 1		

※⑤については、適宜大学教員からのフィードバックを行う。

### 3. 令和元年度と令和2年度に実施した小学校主免教育実習終了後の質問紙調査の方法と結果

本学教育学部の主免教育実習の日数について、附属小学校は令和元年度20日間、令和2年度15日間、A市立B小学校とC小学校は両方共、令和元年度20日間、令和2年度は7日間の教育実習と本学における教育実習補習8日間を併せて15日間であった。

令和元年度と令和2年度に実施した主免教育実習終了後に、教育実習を行った学生に対して独自に作成した質問紙調査票に回答することを依頼した。令和2年度の附属小学校については15日間、A市立B小学校とC小学校については、小学校における7日間の教育実習と本学における教育実習補習8日間を併せた15日間の教育実習に対して回答してもらった。

質問紙調査票への回答については、附属小学校とA市立B小学校とC小学校は両方共、令和元年度は対面による事後指導終了後、全員から手渡しによって回収した。令和2年度はオンラインによる事後指導後にメールに添付してもらって回収した。そのため、令和2年度については事後指導参加者全員から回答を得ることができなかった。

「教育実習について、あなたはどのように考えますか。以下の各項目それぞれについて、該当する番号を1つ選んで○を付けてください。番号の意味は、次の通りです。1：全くそう思わない 2：そうは思わない 3：どちらでもない 4：そう思う 5：全くそう思う」との質問をした。なお、倫理的配慮として、回答に応じる意思のある学生に対して無記名で回答を依頼した。

その後、令和元年度と令和2年度における附属小学校における、各質問項目の平均値と標準偏差を算出した。また、A市立B小学校とC小学校については、両方を合わせて各質問項目の平均値と標準偏差を算出した。これらを使用して、令和元年度と令和2年度間において、それぞれでt検定を行った。

令和元年度と令和2年度の附属小学校における実習生に対する質問紙調査の結果から、「A あなた自身について」の「3. 授業実習の振り返り、成果や課題を把握した。」と「C 教育実習中の準備時間

と睡眠時間」の「2. 平均睡眠時間はどのくらいでしたか。」については2項目共に令和元年度よりも令和2年度の方が有意に高かった（表6）。つまり、附属小学校における令和2年度の実習生の方が、授業実習を振り返り、成果や課題を把握することがなされている。また、睡眠時間も多くとれているとの実感があることが示唆された。

令和元年度と令和2年度のA市立B小学校とC小学校を合わせた実習生に対する質問紙調査の結果の結果から、「C 教育実習中の準備時間と睡眠時間」の「1. 帰宅後、次の日の準備に費やす時間はどのくらいでしたか。」については、令和元年度よりも令和2年度の方が有意に高かった（表7）。つまり、令和2年度の実習生の方が、帰宅後、次の日の準備に費やす時間が多くとれているとの実感があることが示された。

表6 令和元年度と令和2年度の附属小学校における教育実習生に対する質問紙調査結果

質問項目	令和元年度		令和2年度		t 値
	平均	S D	平均	S D	
A あなた自身について					
1. 欠席や遅刻，早退をしないなど教育実習の留意事項を遵守した。	4.81	.646	4.79	.415	.161
2. 授業実習の準備を充分に行った。	4.19	.900	4.46	.721	1.291
3. 授業実習の振り返り，成果や課題を把握した。	4.40	.531	4.71	.464	2.609*
4. 教育実習の達成目標を把握している。	3.94	.842	4.21	.658	1.363
5. 教育実習の評価基準を把握している。	3.89	.847	3.50	.885	1.830
B 教育実習の内容及び方法					
1. 教育実習を行って，教職への意欲が強くなった。	3.70	1.268	3.67	1.129	.123
2. 教育実習事前・直後・事後指導の内容は理解できた。	4.19	.933	4.33	.637	.707
3. 実習校の「教育実習の手引き」を活用した。	4.74	.684	4.65	.573	.513
4. 教育実習日誌に日々の出来事とその分析，指導を受けた内容などを記録として残した。	4.78	.604	4.83	.381	.415
5. 授業実習，子供との関わりなどにおいて，自己課題の解決を図ることができた。	4.41	.740	4.50	.590	.541
6. 実習校における指導の内容は，理解できた。	4.63	.681	4.58	.504	.298
7. 実習校における指導の時間は，適切であった。	4.24	.867	4.46	.779	1.054
C 教育実習中の準備時間と睡眠時間（時間数で回答する形式となっていた）					
1. 帰宅後，次の日の準備に費やす時間はどのくらいでしたか。	4.15	1.416	3.75	1.225	1.204
2. 平均睡眠時間はどのくらいでしたか。	2.72	1.235	5.25	1.113	8.591***

\* $p < .05$  \*\*\* $p < .001$

※令和元年度の回答数はA1，B1，B2，B4～7は54名，A2～5，B3は53名，C1は52名であった。

（実習参加人数55名）。また，令和2年度の回答数はB3のみ23名，それ以外は24名であった（実習参加人数50名）。



表 7 令和元年度と2年度のA小学校とB小学校を合わせた教育実習生に対する質問紙調査結果

質問項目	令和元年度		令和 2 年度		t 値
	平均	S D	平均	S D	
A あなた自身について					
1. 欠席や遅刻，早退をしないなど教育実習の留意事項を遵守した。	4.70	.823	4.94	.250	1.711
2. 授業実習の準備を充分に行った。	4.38	1.005	4.65	.608	1.401
3. 授業実習の振り返り，成果や課題を把握した。	4.55	.749	4.55	.568	.010
4. 教育実習の達成目標を把握している。	4.15	.736	4.23	.560	.476
5. 教育実習の評価基準を把握している。	3.60	.900	3.94	.772	1.689
B 教育実習の内容及び方法					
1. 教育実習を行って，教職への意欲が強くなった。	3.65	1.145	3.94	.772	1.059
2. 教育実習事前・直後・事後指導の内容は理解できた。	4.38	.628	4.26	.893	.620
3. 実習校の「教育実習の手引き」を活用した。	4.63	.589	4.30	1.031	1.523
4. 教育実習日誌に日々の出来事とその分析，指導を受けた内容などを 記録として残した。	4.78	.423	4.71	.461	.620
5. 授業実習，子供との関わりなどにおいて，自己課題の解決を図るこ とができた。	4.40	.709	4.58	.564	1.162
6. 実習校における指導の内容は，理解できた。	4.53	.506	4.61	.558	.694
7. 実習校における指導の時間は，適切であった。	4.33	.730	4.10	1.076	1.014
C 教育実習中の準備時間と睡眠時間（時間数で回答する形式となっていた）					
1. 帰宅後，次の日の準備に費やす時間はどのくらいでしたか。	3.91	1.198	4.63	1.329	2.383*
2. 平均睡眠時間はどのくらいでしたか。	5.01	1.146	4.63	1.372	1.283

\* $p < .05$ 

※令和元年度の回答数は40名であった（実習参加人数41名）。また、令和2年度の回答数は31名であった（実習参加人数48名）。なお、両年度とも回答者全員が全項目に回答していた

#### 4. 考 察

令和元年度と令和2年度の附属小学校における実習生に対する質問紙調査の結果から、令和2年度は3週間15日間の実習と、前年度に比べて1週間（5日間）実習が少なくなった。しかしながら、令和元年度よりも令和2年度の実習生の方が「授業実習の振り返り、成果や課題を把握した」ことが示されている。短期大学における幼稚園・認定こども園での実習に関する報告には、「本来の3週間から2週間になったが、現場での実習で気づいたこと疑問に思ったことなどをグループ討議し模擬保育をしたことで、実体験を基にしたより深い学びになった」（木村・千原, 2021）と記述されている。したがって、この報告と同様に、本学の実習生も実体験を基にして授業実習を振り返えることで深く学び、実習の成果や課題を把握する努力をしたものと推察される。また、令和2年度の実習生の方が睡眠時間を多くとれているとの実感があるのは、前年度よりも実習日数が少なくなったこと、及び早くから指導案の作成に取り組んだことによるものと考えられる。

令和元年度と令和2年度のA市立B小学校とC小学校を合わせた実習生に対する質問紙調査の結果から、令和2年度の実習生の方が、帰宅後、次の日の準備に費やす時間が多くとれているとの実感が

あることが示された。小学校での教育実習が7日間であり、大学での教育実習補習8日間は12月から3月までの約4か月にわたる取り組みであったため、実習生にとっては、授業の準備時間がとりやすい状況にあったこともあるが、実習生が深く学ぶことができるように教育実習補習の内容について工夫をしたことにもよると推測される。

教育実習を行って教職への意欲が強くなったこと、実習校における指導の内容は理解できたこと等については令和元年度と同様であったため、令和2年度のA市立B小学校とC小学校における7日間の教育実習を補うための8日間分の本学での教育実習補習は、実習生にとって通常の実習と同様の体験的な学びが得られたとは言えないものの、教育実習で学ぶべき重要なことについて、ある程度学ぶことができる内容であったものと判断される。

一方、他大学の幼稚園実習の報告には、「新型コロナの感染拡大時期に、県内及び県外の受け入れ可能な幼稚園等の理解と協力を得て180名の実習生全員を実習に派遣することができ、誰一人新型コロナに感染せずに無事に教育実習を終了することができた。その理由として、実習生の新型コロナ感染への強い危機意識や感染した場合の風評被害等に対する強い不安感が実習生の感染防止を徹底させた」（有嶋, 2021）と記述されている。この見解と同様に、本学でも実習生が感染防止のために必要な行動を継続したことが、全員が規定の日数の実習をするに繋がったものと考えられる。

教育実習指導を経験したことがある小中学校の教師を対象とした質問紙調査結果から、「実習指導教員は実習指導を通した学びや力量形成を高く認識しており、特に小学校教員にその傾向が強い。また、指導形態と学びや力量形成の関連が見られ、特に実習生との協働との関連が見られた」（三島・一柳・坂本, 2021）と言及されている。それ故、実習指導教員が実習生と一緒に協働しながら実習指導を行うと、実習指導教員の学びや力量形成に大きく影響するため、実習生への指導が教員の力量を高めるように作用する。そのことから、教育実習は児童生徒に対する教育の質の向上に繋がるため、実習効果が得られるだけの実習日数の確保が必要であろう。

今後、新型コロナの感染が継続するようなことがあっても、必要な感染対策を行いながら教育実習がなされるように努めることが求められる。「教育実習は大学の授業で得た学修や体験を生かす場であると同時に、これから先の教員になるための自己の課題を発見し、自己研鑽の動機づけする場でもある。小学校教育実習を通して自分自身の教員の資質など具体的な観点で自己評価することにより、改善すべき点を明確に自覚できる」（田中・岡田・石田・西村, 2019）と論及されている。このことから、学校現場における実習体験は、教員としての力量を高めるため、児童生徒に対する教育の質の向上に繋がる。それ故、教育実習に際しては、実習校と大学とが共に将来の教育を担う教員を育てる姿勢で、協力して臨むことが求められよう。

## 5. 本研究の限界

質問紙調査票への回答については、附属小学校とA市立B小学校とC小学校は両方共、令和元年度は対面による事後指導終了後、全員から手渡しによって回収した。令和2年度はオンラインによる事後指導後にメールに添付してもらって回収した。そのため、令和2年度は事後指導参加者全員から回答を得ることができなかった。また、令和2年度の実習生への質問紙調査については、附属小学校は15日間、A市立B小学校とC小学校の小学校における7日間の教育実習と本学における教育実習補習8日間を併せた15日間の実習に対する回答であった。

これらの調査資料から、附属小学校、及びA市立B小学校とC小学校それぞれで、令和元年度と令和2年度との各質問項目で比較検討を行った。附属小学校では平成元年度と平成2年度の実習日数が異なる。また、平成2年度についてはA市立B小学校とC小学校は現場における実習日数と本学における教育実習の補習を合わせた結果から、教育実習が実習生に及ぼす影響について検討した。しかしながら、回答数が少なかつたため、得られた結果が妥当なものであるとは断言できない。このため、本研究については、新型コロナウイルス感染の拡大における大学での教育実習補習を考えるうえでの一助となり得るが、それ以上の参考資料になるとは言えないであろう。

再度、今回と同様の事態になることは望まないが、同様な事態が生起した際には、精度の高い分析が可能となるように、実習生、現場の実習指導教員、実習に関わる大学教員に対する調査を行い、教育実習や教育実習補習の教育効果を明確にすることが課題である。

## 6. 結 論

教育実習補習、及び附属小学校、A市立B小学校とC小学校における、令和元年度と令和2年度の各教育実習への質問紙調査に対する実習生の回答を分析した結果、①実習生は実体験を基にして授業実習を振り返えることで深く学び、実習の成果や課題を把握する努力をした。②令和2年度の実習生に睡眠時間を多くとれているとの実感があるのは、実習日数が少なく、早くから指導案の作成に取り組んだことによる。③教育実習が7日間、教育実習補習8日間が約4か月あったため、実習生に授業の準備時間がとりやすい状況にあった。④教育実習補習は教育実習で学ぶべき重要なことをある程度学ぶことができる内容であった。⑤教育実習は児童生徒に対する教育の質の向上に繋がるため、実習効果が得られるだけの実習日数の確保が必要である。⑥教育実習には、実習校と大学とが共に協力して将来の教育を担う教員を育てる姿勢で臨むことが不可欠である。以上が考察された。

## 謝 辞

本研究にご協力いただきました学部教員の皆様、及び学部教務事務の平野敦子様、溝添健太様、吉田槇様、笠原真美様に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 芦原典子・原清治（2021）学校インターンシップの可能性に関する研究：10年間の学生の価値意識の変化を中心として．佛教大学教育学部学会紀要，（20），67-78.
- 有嶋誠（2021）教育実習生と短期大学の新型コロナウイルス感染症対策～実習生の行動様式の変容に関する調査を通して～．宮崎学園短期大学紀要，（13），54-68.
- 木村弘子・千原智美（2021）新型コロナウイルス感染症の流行下における学内代替実習の現状と課題：一介護実習と教育実習において－．甲子園短期大学紀要，39(0)，53-58.
- 小林 力（2021）コロナ禍からの教育実習の在り方に関する研究．神奈川大学心理・教育研究論集，（49），29-50.
- 三島知剛・一柳智紀・坂本篤史（2021）教育実習を通じた実習指導教員の学びと力量形成に関する探索的研究．日本教育工学会論文誌，44(4)，535-545.
- 西川潔・堀田千絵・馬野範雄・宮野安治（2019）小学校の教育実習において学生が培う力とは：全国の小学校教員、教員を目指す大学生を対象とした調査結果から．人間環境学研究，17(1)，3-10.

小田原健一・宮本真衣・加古久光・有本明日翔（2021）コロナ禍における校務部の取り組み―感染防止策を施した式典・PTA活動・教育実習・国際交流活動―. 愛知教育大学附属高等学校研究紀要, (48), 23-26, 2021

佐賀大学教育学部教務課教務係（2020）令和2年度第5回教育実習委員会資料（2020.10.21 使用）

田中るみこ・岡田充弘・石田靖弘・西村敬子（2019）小学校教育実習の学びと意識：自己評価とアンケート調査による前後比較. 中村学園大学発達支援センター研究紀要, (10), 85-92.

矢野口仁・小島哲也・小林敏枝・内藤千尋（2021）教育学部教職支援センターにおける特別支援学校教育実習の取り組み：実習受入校へのアンケート調査による評価と対応. 松本大学研究紀要, 19, 73-82.